

日本看護教育学会第26回学術集会 交流セッション

患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶか



「DIPEX-J:乳がんの語り」映像を活用した 授業展開の実際

自治医科大学看護学部 成人看護学
(元 東海大学健康科学部看護学科)
DIPEX Japan 運営委員

佐藤幹代

乳がんの語りを活用した授業 経緯

- 対象者 : 関東にある看護学部 3年次 約80名
- 実施期間 : 2012年～2015年
- 講義科目名 : リハビリテーション看護論 (120分)
- 活用映像 : 乳がん患者の語り ほか
- 活用の主なねらい
 - ①2012年～2014年:がん患者の対象特性を理解し、必要な看護支援を思考する
 - ②2015年 : 対象者の理解と共感的姿勢の育成 (乳がん、認知症、前立腺がんの語り)

授業デザイン

学習者の実態

3年次学部生(領域別実習前)

乳がん患者のケア

未体験

授業目標

生活機能障害を抱えて生きる人々の身体的・心理的・社会的特徴を深く理解できる。

ねがい

リハビリテーション看護が必要な対象者に関心を寄せて、理解するために他者と交流し、自ら思考し探究できる看護師に成長してもらいたい。

教材

WEB教材

(PC、スマートフォン)

主体的学習支援

時・場所を問わず閲覧可能

指導方略

主体的な学習を促進

思考する時間をもつ

(課題レポート作成)

異なる視点にきづけるよう効果的ディスカッション

講義概要

<講義科目名> リハビリテーション看護論

<該当講義目標> 先天的もしくは、後天的な障害により、生活機能障害に直面した人々の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健康の回復、維持・増進に向けた看護支援を思考する。

<全講義回数>

24コマ(*1コマ:90分)

うち、約120分 利用

<対象学生>

学部生 約80名(3年次)

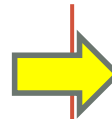
← 5月第1週 : 8コマ目(30分)

← 5月第4週 : 13コマ目(90分)

WEBの語りを自主学习

30分

3週間後



90分

- 健康と病いの語りについて
概要紹介



- 2つのクリップ閲覧
 - ①からだ・心・パートナーとの関係
 - ②術後後遺症とリハビリテーション



- 自由にクリップを閲覧



- 課題レポート作成

- 課題レポートをもとにスモール
ディスカッション(20分)



- 机間巡視
ディスカッションに参加



- 全体発表 10グループ



- 発表内容をパワーポイントで提示



- まとめ

課題レポートの内容と授業評価(ミニッツレポート)

<課題レポート 記述>

課題:「乳がん患者の語り」を閲覧してあなたの考えを述べよ。

- 1)リハビリテーションを必要とする生活機能障害を抱えて生きている人々の**身体的心理的社会的特徴**とは？
- 2)リハビリテーションにおける**看護師の役割**とは？
- 3)下記のトピック以外、**閲覧したのは？**
 - ・術後後遺症とリハビリテーション
 - ・からだ・心・パートナーとの関係

学部生 75名(3年次)

<ミニッツペーパー 自由記述>

講義への意見、感想、質問

学部生 75名(3年次)

閲覧したトピックの項目 (27項目)

n=75(複数回答)

	トピック名(クリップ名)	数(名)
1	異常の発見	5
2	乳がん検診	1
3	診断のための検査	0
4	診断されたときの気持ち	19
5	病院・医師の選択	0
6	治療法の選択・意思決定	2
7	セカンド・オピニオン	5
8	乳房温存術	5
9	乳房切除術	8
10	リンパ節郭清とセンチネル生検	1
11	術後後遺症とリハビリテーション	-
12	リンパ浮腫	3
13	乳房再建術	11
14	抗がん剤・分子標的薬の治療	2

15	<u>脱毛の影響</u>	4
16	<u>放射線療法</u>	0
17	<u>ホルモン療法</u>	3
18	<u>補完代替療法</u>	0
19	<u>再発・転移の徴候と診断</u>	3
20	<u>再発・転移の治療</u>	4
21	<u>再発予防と体調管理</u>	4
22	<u>病気と仕事の関わり</u>	8
23	<u>経済的負担</u>	2
24	<u>からだ・心・パートナーとの関係</u>	-
25	<u>家族の思い・家族への思い</u>	15
26	<u>周囲の人との関係</u>	14
27	<u>妊娠・出産への思い</u>	6

●学生がとらえた乳がん体験者の身体的・精神的社会的・スピリチュアルな苦痛の特徴
＜10カテゴリー＞

●乳がん経験者の映像を見て学生が学んだリハビリテーション看護における支援の内容

＜6カテゴリー＞

ある学生の記述より

(乳がんを体験した家族の思いに気づく)

- 「自分のおばあちゃんが(今から14年前)で乳癌になって、腋窩リンパ節のリンパ隔清をしています。その当時私は小学校1年生で、癌という言葉もまだ知らず病気の理解は全くありませんでした。手術が終わって退院してからすぐにおばあちゃんは仕事を辞めてしまっています。実は乳癌の手術した後に腕が上がらない、熱感があることを今まで全く知りませんでした。今回、乳癌患者の語りを見て初めて腕が上がらないなどの機能障害を知り、おばあちゃんが仕事を辞めてしまったのは、それらが関係していたのかなと思いました。入院中も家でもリハビリ(ボールを握ったり…)していたのは見ていましたが、腕が上がらないなどの苦痛を抱えていたのは全く気づきませんでした。乳癌患者の語りを見て、患者さんが抱えている思いが知られて自分にとっても、良かったなと思いました。」 (本人の承諾を得て全文使用)

ミニツツペーパー：学習到達の評価

- 人それぞれ思いや感じるものが違っていてどれも間違いではなく、受け入れられるものなのだなと感じた。
- 価値観というのは主観的なものであり、ボディイメージが術前後で大きく変化していると受け入れにくい状況となってしまう。看護するうえでその患者自身の価値観を理解し、少しずつ受け入れしていけるよう支援することが大切である。
- 患者さんは様々な「痛み」を抱えており、そこから辛さを感じています。看護師は患者さんの日常生活背景を含めてアセスメントをし、この見えな部分への支援も専門職として重要だと感じました。
- ディパックスジャパンのように、患者さんの声を聞いて共感したり、思いを知ることは看護をするうえで大切なことであると考えた。100%分からなくても考えや思いを知ることはできることが大切であると考えた。
- 目に見えない変化も受けとめる必要があると感じた。

多様な価値観を知り認める

見えない問題を取り上げる

ミニッツペーパー：講義方法の評価

スモールディスカッション

- 「近くの人と話しあい、違った意見が聞けてよかった。」
- 「事前学習で自分の考えとみんなの考えを照らし合わせ、看護の役割についてどのようなことができるか知識が広がった。」
- 「喪失体験への看護では、残存機能に目を向けた援助をするという意見と、失ったものをいかに補っていくのが大切な援助だと感じるという意見が出て、どちらもとても大切なことだと思うし、人の求めるものはそれぞれ違ってくるのだなと感じたのが印象的でした。」

全体発表

- 「自分でサイトを見てぼんやりと理解できていたが、全体で改めて言葉にしてもらおうと理解が違うと思った。」
- 「教室内でフィードバックをすることで、より深く考えることができ、視野を広げることができた。乳癌患者や治療後のリハビリテーションが必要な人々がどのような状態であるのか深く考えることで初めて看護師の役割を考えることができるため、今回の授業のように患者さんについて深く考えることは大切であると感じた。」

学生同士の多様な考えを共有

課題を理解する手掛かりを得る

看護を模索し始める

学生の学び: 対象者の理解

1. インターネット上のデータベース、健康と病いの語りDIPEX-Japan「乳がんの体験談」を用いた講義を受講した学生は、乳がんにかかったひとの多様な全人的苦痛および苦悩について深く思考する機会を得ていた。
2. 性生活の難しさのみならず、そのことがもたらすパートナーとの関係性に及ぶ問題の多様性について学んでいた。
3. 罹患年齢による発達課題の違いにより、苦痛の様相も異なることが学習されていた。

学生の学び：看護支援

1. 学生は乳がん体験者の語りから、手術後のリハビリテーションにおける看護支援として、信頼関係を基盤とし長期的視点で関わる必要性、さらに、女性性の喪失に対する支援の重要性と具体的方法について学んでいた。
2. 新たな人生を切り拓く“人”としての長期的な成長を視野に入れてた支援にも言及できており、ウェブサイト上の語りの視聴から生々しい人間の生き様を学んでいることが示唆された。

学生の学び：看護支援

3. 初学者は、インターネット上のデータベース、「乳がんの体験談」を視聴することで、当事者の視点で、乳がん患者の手術後の看護支援について思考することの可能性が示唆された。
4. 閲覧したデータベースにより、学びの内容に差が生じると考えられるが、複数でグループワークなどを行うなど授業方略の工夫により、学びを共有することが可能と考える。
5. 学生の多様な学びを促進するために、閲覧するクリップは特定せず、討議時間をさらに確保し、時間を選ばず繰り返し自由に視聴できる利点を最大限に活用するような、講義の組み立ても可能と考える。

文献

- Sato, M., Morita N., Semba.M, Shiromaru M., and Iba N:(2015)
Educational Effectiveness of Using the Online Database of the “Health and Illness Narratives DIPEX-Japan (of Breast Cancer)”.18th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS 2015)、Taiwan、Taipei.
- 佐藤 幹代, 高橋 奈津子, 森田 夏実, 仙波 美幸, 城丸 瑞恵:「DIPEX-Japan:乳がんの語り」の映像からリハビリテーション看護において学生はどのような支援を学んだか?
日本看護学教育学会誌 25(学術集会講演集) 174-174, 2015年7月
- 佐藤 幹代, 森田 夏実, 城丸 瑞恵, 仙波 美幸:インターネット上のデータベース「健康と病いの語りDIPEX-Japan 乳がんの体験談」を活用した教育的効果、日本看護学教育学会誌 24(学術集会講演集)、2014年7月
- 森田 夏実, 新幡 智子, 射場 典子, 小平 朋江, 後藤 恵子, 佐藤 正美, 佐藤 幹代, 澤田 明子, 中山 健夫, 別府 宏國:患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶか 健康と病いの語りデータベース(DIPEX-Japan)の教育的活用日本看護学教育学会誌 23(学術集会講演集) 136-136 2013年7月